

## 海洋教育パイオニアスクールプログラム成果報告書について

### 【成果報告書 1：海洋教育のデザイン】

- ・以下の項目に沿って記載ください。
- ・提出は Word 形式にてお願いいたします。 一太郎や Excel にて作成した場合も、Word 形式に変換して提出してください。
- ・字数制限はありませんが、明確でわかりやすい記述をこころがけてください。
- ・項目の記述方法については、図や表を用いても構いません。また、必要に応じて、小項目を追加しても構いません。
- ・提出いただいた報告書は、主催団体にて作成する各種資料に掲載することがあります。

#### <記載項目>

1. 学校名
2. 活動テーマ名
3. 実践の概要・ねらい
4. 実践計画
  - ① テーマ・概要・活動計画、教科等との関連  
※申請計画に記載の学年ごとに整理してください。
  - ② 実践の評価について
5. 今年度の実践
  - ① 計画からの追加・変更点
  - ② 実践の成果
  - ③ 次年度への課題
6. 主な連携機関及び内容

### 【成果報告書 2：海洋教育のストーリーマップ（学年ごと）】 ※参考資料 A

- ・海洋教育のカリキュラムデザインする際のストーリーをマップとして作成してください。
- ・横軸は年間のスケジュール、縦軸はストーリーの流れを整理する項目（以下参照）にて整理してください。軸の項目については、各学校で設定いただいて構いません。
  - 例) 小学校：体験的な活動、探究的な活動、教科等との関連
  - 例) 中学校・高校・その他：調査的な活動、探究的な活動、実践的な活動
- ・提出は Word、Excel、Powerpoint のいずれかの形式にてお願いいたします。
- ・提出いただいた報告書は、主催団体にて作成する各種資料に掲載することがあります。

### 【補足書類】

- ・指導計画、単元計画、学習指導案（略案、細案）、ワークシートなど

# 5年生「海と親しみ、人と関わり、海とともに生きる海洋教育の推進」

サンプル

【実践のねらい】

豊かな三陸の海を素材に、自然条件と生態系との関連や自然環境と生活の関わりを追究する活動を通して、「海と共に生きる」ことの本質を捉えさせ、地域の生活や産業（水産業・観光業）について自分なりの意見をもち、地域の発展について考えさせる。海辺の環境と人々の生活との関わりについての考えを深めることができるように、磯の調査、ワカメ養殖体験、漁船乗船体験、漁船乗船体験等の体験的活動を取り入れる。自分たちの生きる地域を深く見つけ、未来像を話し合い、広く発信する活動を通して、主体的に学び、実践する力を育てる。

○時数 5月～8月 74時間（総合的な学習の時間44、社会科22、理科8）

○関連 理科、社会科

○目標

- (1) 「海にふれる・海を知る」活動を行うことで、児童は、海を身近なものとして捉え、「海の環境と人間生活との関わり」について、自身の課題として考えることができる。
- (2) 岩に実際に足を運んで海の様子を見たり、海を生かした仕事（水産業や観光業等）に従事する人の話を聞いたりすることで、地域の現状を共感的に捉えることができることにも、「海と人の結びつき」の深さを実感することができる。
- (3) 「われらの新たなみなと町」をテーマに、地域の魅力を調査し、新たな魅力を考案し、実際に発信する活動を通して、「海とともに生きる」ことの意義を考え、よりよい地域の創造に向けて意欲をもつことができる。

【主な連携機関と内容】

- ・〇〇市水産課：魚市場見学
- ・〇〇市産業センター：関連施設見学
- ・〇〇市環境課：環境調査
- ・漁業共同組合：養殖体験

